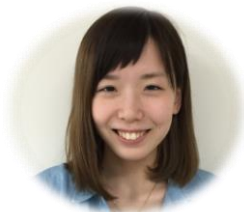


QOLサポーターをめざして

「実践力を磨く課外活動」

子どもたちの眼を守る～劇団視機能の「眼の健康紙芝居」～



視機能科学科 1期生
登坂 奈津美
新潟県立十日町高校出身

視機能科学科では、子どもたちに眼を大切にしてもらいたいと考え紙芝居を作成し、新潟市北区を中心とした保育園や幼稚園へ訪問する活動を続けています。3歳児健診において、強い屈折異常による弱視や斜視をもつ子どもが発見されることは珍しくありません。また、小児の視力は6歳までにほぼ完成されますが、ゲーム機やタブレット型コンピュータの普及などにより、子どもの視的環境は大きく変化し、子どもの眼の健康管理へのニーズが高まっています。こういった背景から、子どもたちの視機能を守るために活動を開始しました。尚、紙芝居を披露することから、この活動に参加している学生たちを「**劇団視機能**」と呼んでいます。

紙芝居は、視機能科学科1期生である私たち2年生が作成しました。①汚い手で眼をこすらない②食べ物の好き嫌いをしない③テレビやゲームは休憩をとりながら行うといった、子どもたちが今すぐに実践できる内容となっています。わかりやすいイラストを見せながら、時には学生と子どもたちが紙芝居の内容の約束事を一緒に声に出すなど、子どもたちに眼の大切さを理解してもらえるよう工夫をしています。私が訪問した保育園では、子どもたちが熱心に私たちの話に耳を傾けてくれて、眼を大切にするという約束をしてくれたことがとても嬉しかったです。それと同時に、やりがいを感じることも出来ました。

現在は、新潟市北区を中心とした保育園、幼稚園への訪問となっていますが、今後はさらに活動範囲を広げていきたいと考えています。また、新しい紙芝居を作成し再度同じ保育園、幼稚園への訪問をさせていただくことで、子どもたちの「眼の健康」への理解はより深まると思います。今年は、2期生である1年生も訪問活動に加わり、ますます活動の幅が広がっています。

長く後輩につなげていきたい活動です。

